

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立調布大塚小学校

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・習熟度別指導を展開し、児童の習熟に合わせて既習事項を確認したり、電子黒板やデジタル教科書などのICT機器を活用したり、視覚的に授業を行ったりしたことで、図形についての理解が向上した。
- ・自分の考えを図や表などを用いて表現したり、伝え合う活動を多く取り入れたことで、学習内容が深まり、計算の基礎となる力が定着した。

(2) 課題

- ・目標値と本校の平均正答率を比べると、知識技能のより思考判断の上回りの方が小さい。四則計算や分数、数と計算のしくみを基に考える問題が課題である。
- ・基礎より活用の上回り方が小さいので、データから読み取れることを基に計算を考えたり、間違いを説明したりすることを苦手としていることが考えられる。

Ⅱ 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	△		
第5学年	△	△ (第4学年時)	
第6学年	△	△ (第5学年時)	△ (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較すると大きく上回っている。	・目標値と比較すると大きく上回っている。	・目標値と比較すると大きく上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較すると大きく上回っている。	・目標値と比較すると大きく上回っている。	・目標値と比較すると大きく上回っている。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・足し算や引き算や九九など、計算の基礎を確かなものにするために、タブドリ live!を活用する。 ・身の回りにあるものの長さ、広さ、かさについて具体的な操作活動を増やすことで、長さや量の感覚を豊かにする。	・数のまとまりや、数量の関係に着目し、計算の仕方を工夫したり計算の確かめをしたりする。 ・自分の考えを深めたり、教わったことの理解を確実なものにしたりするために、児童同士で説明する活動を取り入れる。	・児童にとって身近なものを使って、長さや、かさを体感できるような数学的活動を行う。 ・苦手意識をもたずに学習活動で達成感を得られるよう、スモールステップ学習を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・九九やわり算などの計算力を高めるために、効果的な反復学習を行う。 ・長さ、広さ、円、重さについての算数的活動を行い、長さや量の感覚を豊かにする。 ・タブドリ live!を単元ごとに活用し、児童に、確実に技能が定着するようにする。	・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算の確かめをしたりする。 ・図形を構成する要素に着目して、図形の性質などを使って説明する活動を多く取り入れる。	・児童にとって身近なものを教材にし、長さやかさ、重さを体感できるような算数的活動を行う。 ・意欲をもって自分の考えを発表できるように、ペア、グループでの活動など、友達と関わりながら学習を進める時間を多く取り入れる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・分数の通分や約分などの計算力を高めるために、既習事項を振り返りながら学習を行ったり、タブドリ live!を活用したりして反復学習を取り入れる。 ・図形の学習では、前学年までの内容を復習する時間を取るとともに、図形の構成要素に着目し、性質を使って作図できるようにする。	・正しく演算決定し、正確な解答を導くために、数や式の意味と表現について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を考えられるようにする。 ・図形を構成する要素や性質に着目し、筋道を立てて作図や面積などの求め方を考える。 ・自分の考えをペアやグループで互いに説明する活動を増やす。	・学習内容を生活に生かせるようにするために、身近に感じられる教材を準備したり、数学的活動を取り入れ実際に計測したり、体験したりする場を作る。 ・意欲的に学習に取り組めるように、生活との関連や教科横断的な視点を取り入れ、自ら説明したくなるような場面を設定する。